

**JMJA 6646**

**TMJA 6646**

**DEGREE OF MASTER OF SCIENCE  
DEGREE OF MASTER OF PHILOSOPHY**

**Modern Japanese Studies**

---

**JAPANESE LANGUAGE (UPPER INTERMEDIATE) PAPER B**

---

**TRINITY TERM 2008**

**Tuesday 3 June, 9.30 a.m. – 12.30 p.m.**

Please start the answer to each question on a separate sheet.

Candidates should answer **ALL** questions.

Do **not** turn over until told that you may do so.

## [Section A.]

Read the following passage and answer questions A.1-A.4. All answers must be written in the booklet provided. (30)

### 「アフリカンタイム」— 時間感覚の違い認識し理解 よこはま 横浜国大で

「ケニアから来たと言うと『空港をゾウやキリンが歩いているでしょう』と言わ  
れる」（ギドウイ・ジョン・ンガディアさん）。今のアフリカを知ってほしいとい  
うイベント「アフリカンタイム」が2月16日、横浜国立大で行われた。パネルデ  
ィスカッション「ここが変だよ、日本、アフリカ」では、同大大学院のアフリカ系  
留学生3人とアフリカに滞在した元青年海外協力隊員\*3人が、感じたギャップや  
驚きを率直に語り合った。（\*青年海外協力隊=Japan Overseas Cooperation Volunteers）

横浜では5月に、アフリカ開発会議（TICAD）を開催。その関連として、横  
浜国立大の学生が市国際交流協会と協力して企画した。

ガーナに派遣された元協力隊員の浜口佳子さんは「コーヒーを頼んだら30分後  
にやっとお湯とインスタントコーヒーが来た」と話した。これに対しウガンダ人の  
スセサンガ・ポールさんがちょっと待ってとばかりに手を挙げた。「それは長いと  
いえば長いし、短いと言えば短いよね。」

ウガンダに行った中村政照さんは最初、あいさつに困った。ちょっとしたあいさ  
つのつもりが、「家族は元気ですか。牛は元気ですか。ニワトリは…」と5分もか  
かってしまうからだ。ケニアに行った清水武彦さんは「日本人は分単位で行動する  
が、アフリカ人は『今』を単位で行動する。今の時間を楽しむ発想が根本にあ  
る」と時間感覚の違いを分析する。

セネガル人のディウフ・マサンバさんは電車内の静かさに驚いた。「読書した  
り携帯電話をいじったり。ハエの羽音が聞こえるかと思ったよ。」「国では電車に  
乗ると知り合いと情報交換。静かなんてありえない。」

学生ら約70人が熱心に傍聴。その一人、山口梓さんは「自分の目で見ないと  
ものごとは分からんかった」と思った。先入観は危ない」と話した。

ディウフさんが言った。「初めは日本人に避けられ、日本が嫌になった。けれど、  
内に優しさを持っていることが徐々に分かった。同じ人間同士、自分から溶け込も  
うと思えばどこの社会でも溶け込める。」【早稲田大 篠健一郎】

(毎日新聞 2008年3月7日付け東京夕刊をもとに一部改定)

A.1. どこで何が行われましたか。誰が企画し、誰が語り合い、誰がそれを聞きましたか。日本語で答えなさい。(15)

- (a) どこ :
- (b) 何 :
- (c) 企画した人 :
- (d) 語り合った人 :
- (e) 聞いた人 :

A.2. 「アフリカンタイム」はなぜ企画されたのですか。次から適切なものを選びなさい。(5)

- (a) 日本人の「アフリカ嫌い」を直すため。
- (b) 日本人にアフリカのことをもっと知つてもらうため。
- (c) 日本人が考えるアフリカの変なところや、アフリカ人が考える日本の変な  
ところについて、お互い語り合うため。
- (d) アフリカ人が日本社会に溶け込めるようにするため。
- (e) 日本とアフリカの時間感覚の違いを理解するため。

A.3. 「アフリカ人は『今』を単位に行動する」とは、どういうことですか。次から適切な説明を一つ選びなさい。(5)

- (a) スケジュールや時間のことはあまり考えずに、今この時間を100%楽しむことだけを考えるということ。
- (b) ちょっととしたあいさつにも時間をかけ、楽しく人と話すために努力すること。
- (c) 読書したり携帯をいじったりして時間をつぶすことよりも、積極的に周りの人と話すことを大切にするということ。
- (d) 行動の速さよりも、楽しさのほうが重要だということ。コーヒーの準備も楽しみながらやるので30分かかることがある。

A.4. ディウフ・マサンバさんについての記述として正しいのは次のうちどれですか。当てはまるものを全て選びなさい。(5)

- (a) ディウフさんは、早稲田大学の学生だ。
- (b) ディウフさんは、日本の静かな電車の中でハエの羽音が聞こえたので驚いた。<sup>おどろ</sup>
- (c) ディウフさんは、現在、日本が嫌いなわけではない。
- (d) ディウフさんは、日本人は優しいところがあると思っている。
- (e) ディウフさんは、努力すれば誰でも日本社会に溶け込むことができると思っている。

THE END OF SECTION A. SECTION B FOLLOWS.

## [Section B.]

Read the following essay and answer questions B.1-B.8. All answers must be written in the booklet provided. (70)

## VOCABULARY LIST

いとな 営み	activity, practice, doing	モノサシ	ruler, scale
ひな 虚しさ	emptiness	うらづ 裏付け	backing, support
消費	consumption	やすらぎ	peace of mind
のうそっちゅうこういしよう 脳卒中後遺症	aftereffects of a stroke	わくぐ 枠組み	framework
へん 片マヒ	hemiplegia, hemiparesis	そうしつ 喪失する	lose
にんちしょう 認知症	dementia	ぐげんか 具現化	embodiment
知身の障害	mental/physical disability	じやま 邪魔な	obstacle, drag
かいご 介護	nursing care	せいけつ 清潔	cleanliness, neatness
手放す	give up, part with	不潔	清潔の反対。
みと 看取り	caring for a dying person	無駄	waste, futility
見当がつかない	cannot guess	さつせん 雑然さ	messiness
原点	beginning, origin, basis	はいじょ 排除する	exclude, eliminate
ゆだ 委ねる	leave/entrust [a matter] to someone	ししょう 支障	obstacle, hindrance
説得力	persuasion	福祉	welfare
能率	efficiency	ひ 秘める	hide, keep
効果	effect		
合理的	practical		

## 生活の質とは？本当の豊かさとは？

生活相談員 高橋 健

家には、<sup>つく</sup>創りだす <sup>いとな</sup>営みが無い。

与えられたものを選ぶだけの消費の場になってしまった…。

休みの日に自宅にいて、ふとそんなふうに思えて、<sup>ひな</sup>虚しさを感じたことがあります。

私は、「特別養護老人ホーム」という、脳卒中後遺症の片マヒや認知症など  
で著しい知能の障害を持ち、家庭では介護できない60才以上の人々が暮らす施設  
に勤めています。強制的に入所させられた人もいます。そんなわけで、ふだんから  
家庭とは？生活とは？人生とは？などとあれこれ考えることが多くなります。

最近特に気になるのは、私たちは、人間が本来持っていた「生活を創りだす営み」をつぎつぎと手放してしまったのではないかということです。

人間の誕生や看取りは病院へ。

子供たちの成長は学校や塾へ。

生産や創造は職場へ。

食物もどこから来たのか全く見当がつきません。

人間の生活の原点とも言えるこれらの事柄を、私たちは家庭や自分の住む地域から切り離し、専門の施設や専門家の手に委ねてきました。その方が能率的で安全確実だという合理的な説得力があるからです。能率や効果というモノサシで物事を測ることを選択したわけです。

私たちの経済活動もまた、「合理的で能率的」なモノサシが要求される世界です。  
消費の場の家庭には、全てにお金の裏付けが必要です。健康やレジャー、教育も  
“産業”と呼ばれ、趣味や生きがいまで、お金で買われ消費されるものになってきました。創造の喜びや、やすらぎ、心の豊かさまでもが、お金の枠組みのなかに組み込まれてきているのです。

一方で、原点を喪失した家庭や地域は、豊かさの名のもとにQOL、すなわち生活の質の向上を求め始めました。しかし実際には、人間本来の暮らしとは何かということには目を向けて、単に商品化された豊かさの具現化として「便利さと快適さと清潔さ」を追い求める方向へと向かっているように思えてなりません。

そしてその裏側には「便利、快適、清潔」に反するものを「不要で邪魔なもの」と見て、切り捨っていくという一面性があります。たとえば老人ホームで、施設内の快適と清潔が前面に出されると、私物の持ち込み制限につながります。別に不潔が好きというわけではありませんが、生活とは無駄や雑然さがあるものです。

家庭や地域では「便利、快適、清潔」に反する存在は、「ゴミ」と同じです。かくして、このモノサシに反するものは、家庭や地域から排除され、能率主義の経済活動にできるだけ支障がないように、地域が不快不潔にならないようにと、目の届かない所へ処分されます。たとえ、それが人間であっても…。

このような合理性や効率性が全ての社会はこれからどこへ向かうのでしょうか。能力主義的合理性イコール幸福なのでしょうか？カネと消費が中心の世の中。創造の喜びを子どもに伝えることを忘れた親たち。能率や能力というモノサシによって「障害者」と規定され、老人ホームで人生の最後の時期を管理されて過ごす老人たち。そして、老人がいる家庭、すなわち、効率的ではないものが存在する家庭というものを知らずに育つ子どもたち。私は、このままでは何か大切なものを失ってしまうような気がしてなりません。豊かさの意味をもう一度ふり返り、私たちの暮らし方そのものについて考えることが必要なのではないでしょうか。福祉の現場には、その答えが秘められているような気がするのです。

(extracted and modified from <http://www.geocities.jp/pnntal3/nobiro.html>)

**B.1.** 「ア特別養護老人ホーム」とは、どのような老人ホームですか。日本語で答えて下さい。(5)

**B.2.** 筆者は、ふだん、どのようなことをよく考えますか。それはなぜですか。日本語で答えなさい。(5)

B.3. 生活を創りだす営みとはどのような事柄ですか。次から適切でないものを二つ選びなさい。 (5)

- (a) 野菜を育てること。
- (b) 親が子どもに漢字の書き方を教えること。
- (c) 病気のおじいさんを介護すること。
- (d) 新しい服を買うこと。

B.4. 「原点を喪失した家庭や地域」とありますが、「原点を喪失した」とはどういうことですか。次の中から最も適切なものを一つ選びなさい。 (5)

- (a) 生活を創りだす営みが家庭や地域からなくなってしまったということ。
- (b) 家庭や地域の中での信頼関係が崩れ、人間関係が希薄化してしまったということ。
- (c) お金がなければ何も創りだすことができない社会になってしまったということ。
- (d) 「貧乏ヒマあり」の生活がなくなってしまったということ。

B.5. 老人ホームで快適さや清潔さが優先されるとどうなりますか。次の中から最も適切な例を一つ選びなさい。 (5)

- (a) 無駄なものは、ゴミとして捨てなければならない。
- (b) 不潔な老人は、老人ホームにいられなくなる。
- (c) 老人が子どもや孫と自由に会うことができなくなる。
- (d) 家具や、好きな本やCDなど、何でも自由に持ち込むことができなくなる。

**B.6.** たとえ、それが人間であっても…とは、具体的に何を意味しますか。次の  
中から最も適切なものを一つ選びなさい。(5)

- (a) 老人や障害者などは、他の人と同じように社会生活を送ることができないと判断され、特別な施設へ入れられてしまうこと。
- (b) 退職して暇になり、うちに寝てばかりいる「粗大ゴミ」のような父親が原因で、母親がストレスを抱えること。
- (c) 老人や障害者などの社会的弱者は、誰からも助けてもらえないこと。
- (d) ニートやホームレスは、社会に存在する価値がないと思われ、さまざまな差別を受けること。

**B.7.** 筆者が一番言いたいことは、次のうちどれですか。最も適切なものを一つ選びなさい。(5)

- (a) お金を払えば欲しいものが何でも手に入る現代社会では、家庭は、与えられたものを選ぶだけの消費の場になってしまった。
- (b) 現代人は、生活を創りだすための努力が足りない。
- (c) 現代社会では「便利、快適、清潔」が重視され、それに反するものは排除される。
- (d) 合理性と能率が優先される現代社会では、能率や効果というモノサシでは測れない豊かさを失ってしまった。

**B.8.** この文章を 400 字以内で要約しなさい。(35)

THE END OF SECTION B.